



秘傳騎射書

ケ 5
521
3





挾物射乎具心得之書



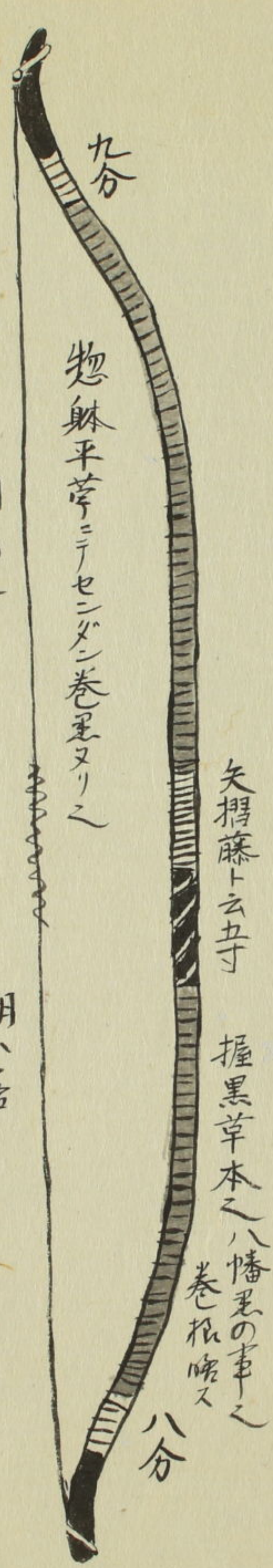
弓

式の之所藤ハ上下組藤上九分下八分矢摺藤五寸塗  
 ハ黒う漆一梅檀巻本儀也握ハ黒草本也母草草  
 と用れとも誠ハ岩儀巻根ハ外竹のうらう角の  
 本と竹の同より巻おし外竹の角持竹と  
 本の同より巻止之但上下三巻つハ間もあくま  
 りと巻中とさしつ同並て年溜り有根よ  
 巻下を法ハ黒塗ありを川留有下又管笛と言ハ  
 惣名あり委く云時多々胡々を源登ハまタハはぐりといふ



軍古實之さつ又之披白弦かく侍といハ上下を少  
 一黒く深おく居一又白木の弓くそ騎射を  
 侍軍ハ曾てあふ儀なれともり一射れり可くえ  
 是と法の上下が一深く射一却て三所藤ハ此又  
 所藤七所友といハ別之圖と以て

三所藤の畧



惣躰平草ニテセシダニ巻墨アリ

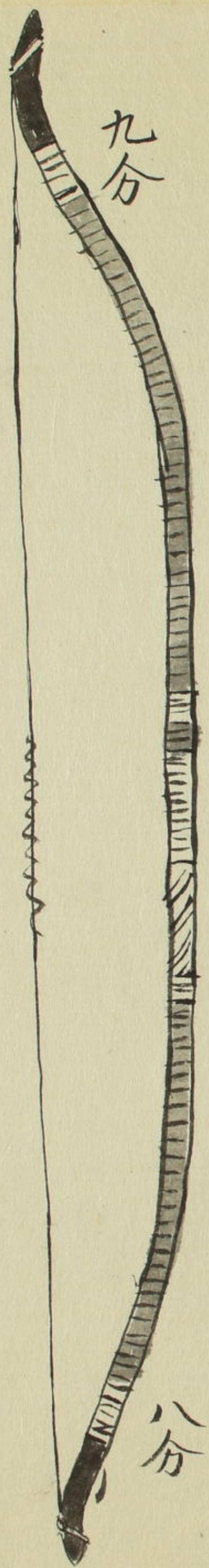
用弦之

朝ハ諸  
夕ハ五

五所藤の圖

ニライト云 五寸

鎬夕キト云



七所藤の圖

九分 ニライ

ニライ 寸 鎗タキ

ニライ 八分



### 鎗矢

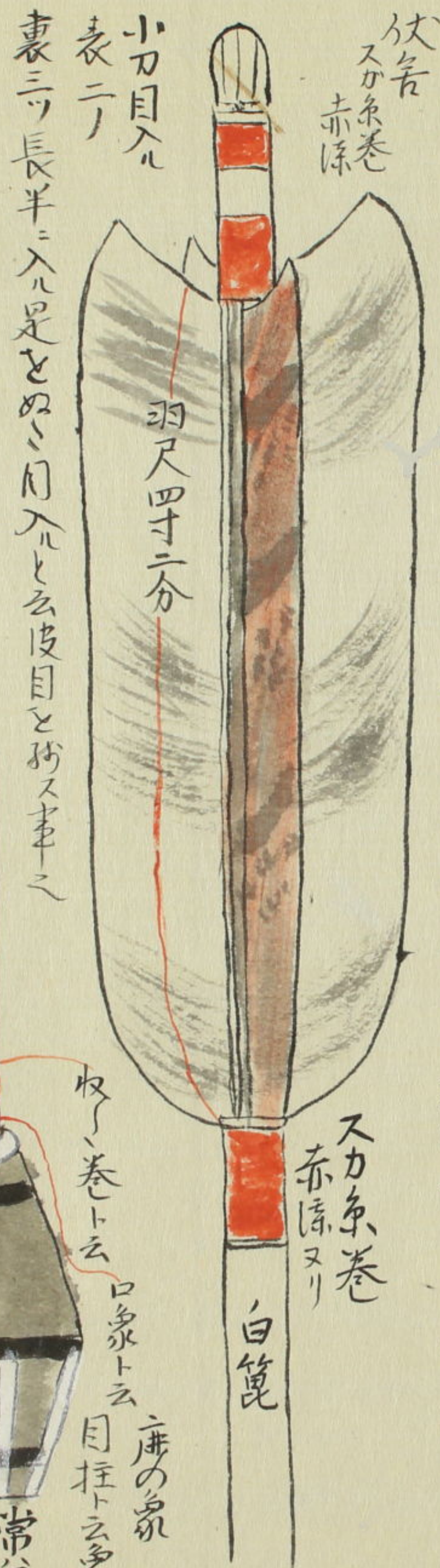
是ハ上美の端を用也志の常ノ用也射ハ根を貫て弦根を入て射ハ羽ハ鷹の三毛ひやくをの白ととのうくを思立之小羽ハ鳥の川尻あり篋ハ志々篋ハ箭を引はるハ赤漆矢束

巻直一是ハ我矢束より二丈の一て行ふいとて幅三分は巻赤漆を巻一是鎗矢不限た好儀之又鎗きわは根多巻有ハ一扱矢束巻はるはけハ編ハ矢大事物なりてハ射ぬる也我矢束と云はれ中一川のく好程よす之玄間矢束巻と巻て中一引けて瀉も何れハ矢束も能引か安ハ射ハ為ありを是秘ハ一扱瀉の長さ之丈也日ハ二日之併三日四日五日もく好あり日柱ハ麻北角ノ之他之三方にぬく日とのこすより本儀之志ハ一流瀉馬扱物等より好るの

本弓く作を赤くくくはてぬる之端矢頭の本林鶏  
 卵の上をきり下をきりて鏑神頭となすこれ秘事  
 之又矢の箭ハ三姉一なり志のいへ箭篋とハさたる  
 此三姉一といふハ羽中篋中者あふ一之志り一四箭  
 五箭もも苦くく

鏑矢の圖

一新を志すむの白のふそ事ハ儀ありとも羽幅せきし取用いへく



伏箭  
スガ系巻  
赤原

羽尺四寸二分

小刀目入  
表ニ  
裏ニ  
長半ニ入足とぬ目入と云皮目と稱ス事ニ

スガ系巻  
赤原ヌリ

白篋

収巻ト云  
口象ト云  
目柱ト云象ニ

矢束巻幅ニ今  
我カ矢束よりニ伏延て  
平草にて巻是ゆり

常鷹股ヲ  
母貝で漆根  
ヲイナシ



ヨミと云六寸五ほど

漆根ト云

猪ノ目ト云

矢頭

矢頭ハ女燕木儀ありいふと干堅て用ひれ之志くれ此當代  
 ハ本より作長さ三伏也本ハ三つ木編くは採りて用  
 由尤赤うほしめてぬるあり篋ハのこひ篋よ志てを紅糸  
 くりくりぬり糸目をくり黒くぬるなり羽ハ鴉木儀之  
 之立羽にて若ハ的矢を以て是騎射者下敷の裨既なり  
 一平裨頭と言ひさけ一篋編く一つけりて若ハ節若よ  
 一巻に漆とため一高羽をき目ハ志とぬり式ハ  
 之よ栗色あり尤是ハ騎射に用ひぬ矢あり

神頭矢此圖

的矢若



平笠巻、是漆ぬり

ちり木編くは採りて用也  
 赤漆ぬり

竹笠

是ハ井ノ子アジロノ紐ナリヲ赤ク染メテ  
 其ノ紐ナリニ結テ人ノ首ニナリテ鳥帽子ノ紐ト  
 同キ事ナリ



あじろ目  
赤染あり



竹皮ノリ

七世有之方茶と定

行騰

行騰ハ麻ノ蓑毛ヲ儀ナリ白毛ノ長クテ  
 賞取ナリ是物大  
 茅ノ通白毛ナリ三尺六寸古法ナリ志ノ人ノ丈ニ  
 一尺五分ノ長ナリ又切テ秋ニ毛ハ中充以上用カ  
 志ノ人ノ丈ニ  
 畧儀ナリ又割合ハ行騰ト云ハ蓑毛ト秋ニ毛ノうち式  
 ハ熊毛杯割合ナリ是皆蓑毛ナリ用カ  
 豹虎ノ皮ト  
 もにいつれ麻と云ハ是蓑毛ナリ儀ナリ  
 割合ナリ熱  
 して割合ハ略儀之乃皮ハ行騰ハ平入用カ  
 豹虎ノ草ハ 將軍家ノ行騰ナリ此ハ行騰ノ紐ハ  
 七世



皮あり鍍とんす綿子等にて裏打ると  
 將軍家御事有り塗以騰と云はる由にてぬり或ハ  
 塗とふくぬりて地を黒く塗たると言是ハ宿元此を  
 此之を畧儀

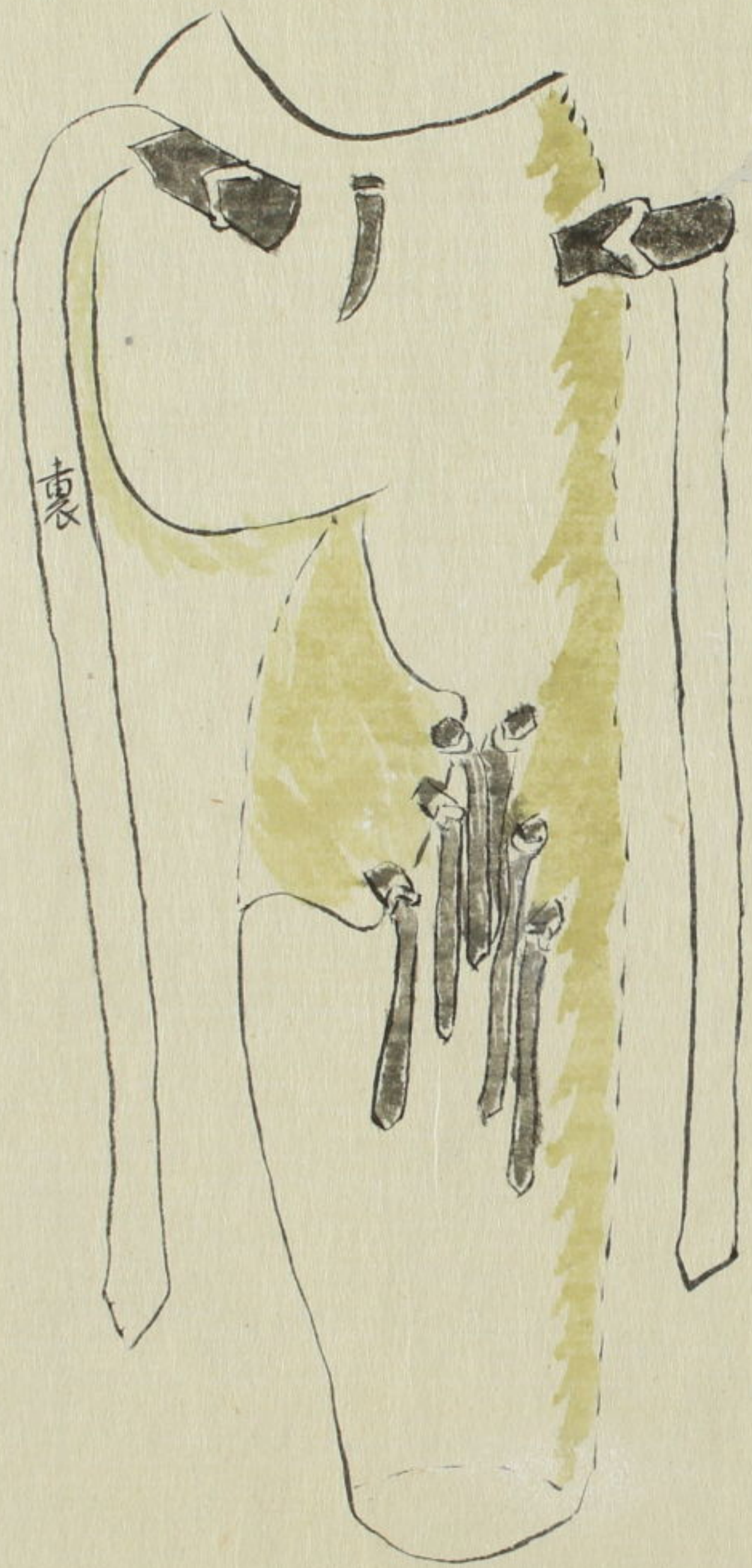
以騰のよ一寸透はうり以騰と云寸何をも仮以騰  
 とし是と一うのちかぬとふあり其分をり透うよ  
 紀之糸ハ二三寸ゆき多はうり於て鈕草蒲草あり葉目  
 苗メ此草似し鍔苗とも云此込の紐とも同く葉目苗め  
 ハ大小あて糸もふら後一もふら一此込のぬハ三折なり



を大以騰ハ心取も付らなり扱以騰と付らハたふりは  
 いて右より附るなり本儀なり



弓小手  
 是ハ情好ハ儀ナリ金満どん寸の糸も用同裏の之  
 志リ情好ハありざる時ハすじ裏と用中ありサハ  
 大情好小情好あり弓小手地古より見守所の一を畧



紐等々草々

巾着ト云

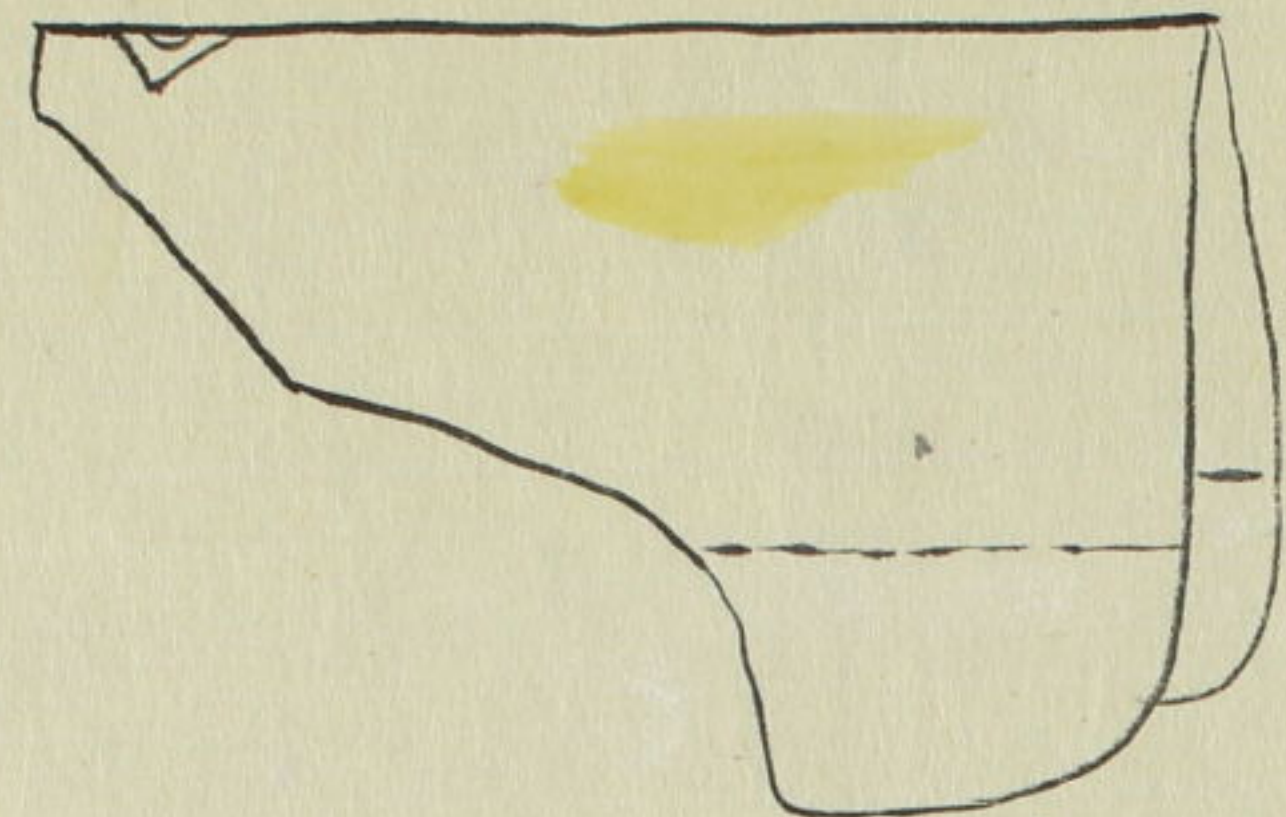


裏目留メ又満留メト云

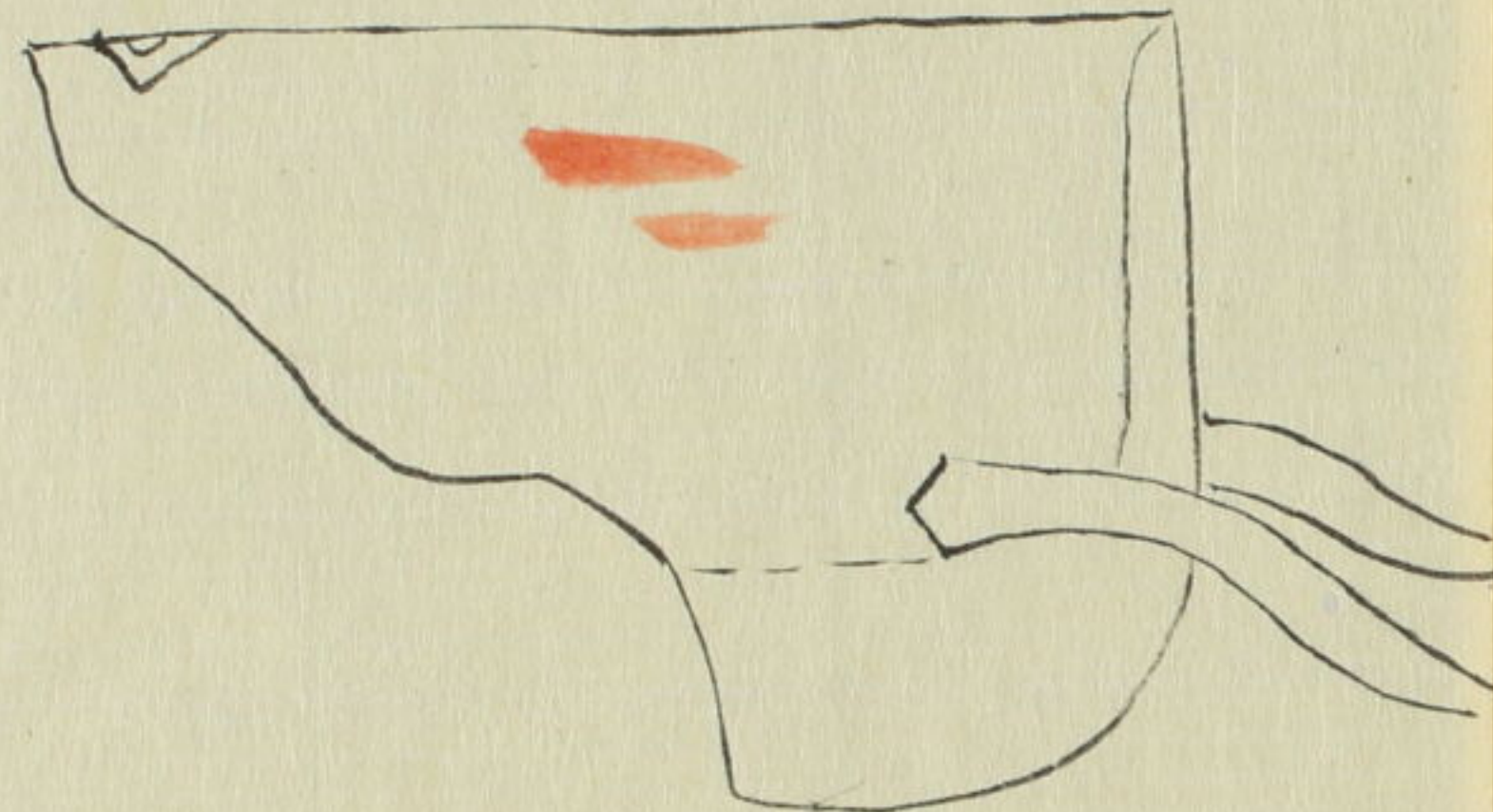
切れト云

白毛ト云

云ト吹山



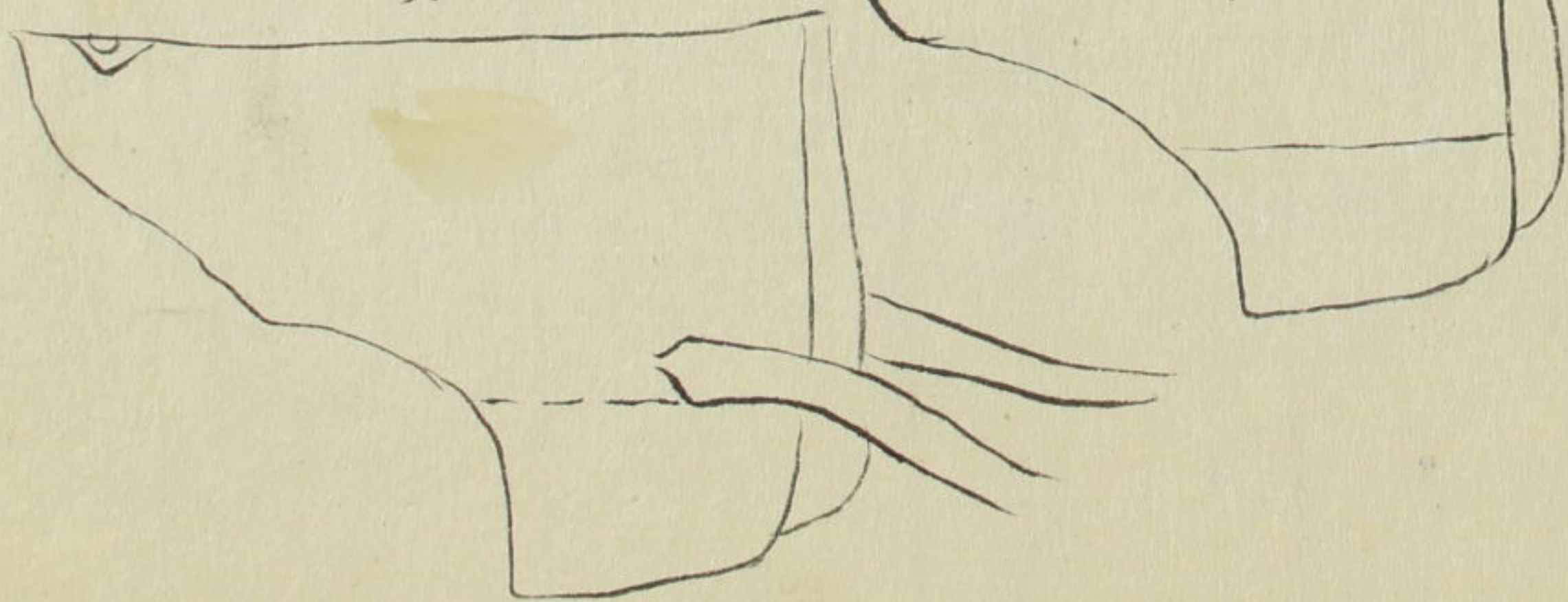
云ト緋



云ト葉朽黄



云ト葉朽赤



云ト丹牡



云ト梅紅



云ト梅紅薄



二記又金襴等此摺致之用也又しず探と云も古工とのな  
り紐ハ駒形菅蒲草あり但筋有て大精好初なきを

小精好と云——を布前を惣して

表大精好裏小精好



此小字保之  
將軍御好も出来し形又摺紙毛  
涉筆して御下繪は龍宮

小半紐駒形葛蒲草之結や口傳  
糸紐



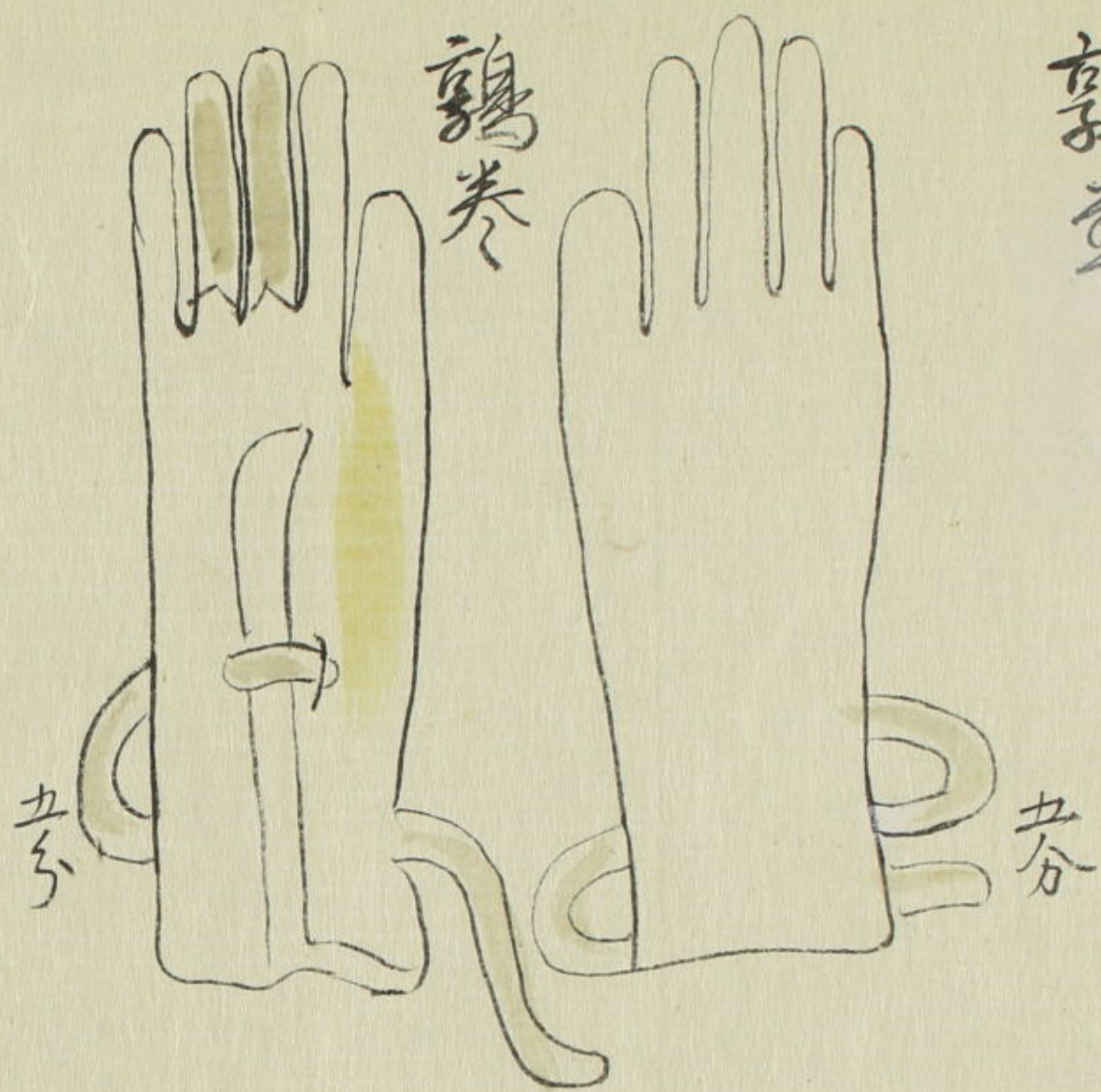
一具弓掛

弓掛ハ何れも之故の草又ハ綿草ハ綾中もきなり  
の甲上家々の紋付も軍陳の世川ありてハせぬ之併  
有徳大君御時より紋付の弓ひ用ひ若世弓ひ用ひ

此時ハ故の大きハ分ニ想シテ葉也ハ寸五分也ハ寸と草ヲモ  
造リ何れとも畧倣ナリ其謂ハ謙念の右大臣殿のとき富  
貴ヲ以テ將志也ハ世川久トク將セラルに依テ大也ハ寸と葉  
也ハ寸の草造ルナリハ寸五分破ナリ其時大指と葉指ナリ  
ト草ヲモ造ル物ナレハ寸五分思白キトテ葉也ハ寸  
五分也ハ寸と二ツ造テ用也今に至右の如ク之弦ハ友草  
何れとも紫草も付ナリ懸の皮と指草と弦の  
皮と別ニハ寸五分造ル之弦ハ幅五分たないハ長さハ寸  
ひと寸五分ハ寸五分ハ寸五分又指の間と切ラリ是危口

以テ秘スアリ弓楯の紐乃苗也ハ寸五分秘ス也安ホ志  
ハ寸五分古ナリ隼草ハ寸五分草ナリ又ハ寸五分卷とも  
言也ハ寸五分水巻目指其外也好スアリ但ハ寸五分ハ  
有徳大君也專ニ御用也ハ寸五分也ハ寸五分ハ寸五分遠也  
ハ寸五分一具也ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分取アリ又ハ  
寸五分ハ寸五分貴人の前ハ出立時ハ寸五分ハ寸五分取テ出  
又取ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分  
ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分ハ寸五分

鶴草



鶴巻

草



鞞

射半の鞞ハ竹根本儀作り寸法ハ杖腕とさし延て尻  
此下ハ取柄の方と押尚丈高指の尻先は尚又六寸  
取て其さきと又ハ束よ切二寸のよりぬむハ  
くすしハ中にて取てぬ此間く切取切柄ハ  
二記取柄ハ草之長さ六寸腕貫の長さ同六寸又腕  
貫の定取柄の先よりみか之取柄の長さ六寸の時ハ  
りと一文字よ切六寸より短む時ハ其短む方より先一  
寸よ切之紐の倍柄ハ兜巻ハ免々結より紫竹の鞞

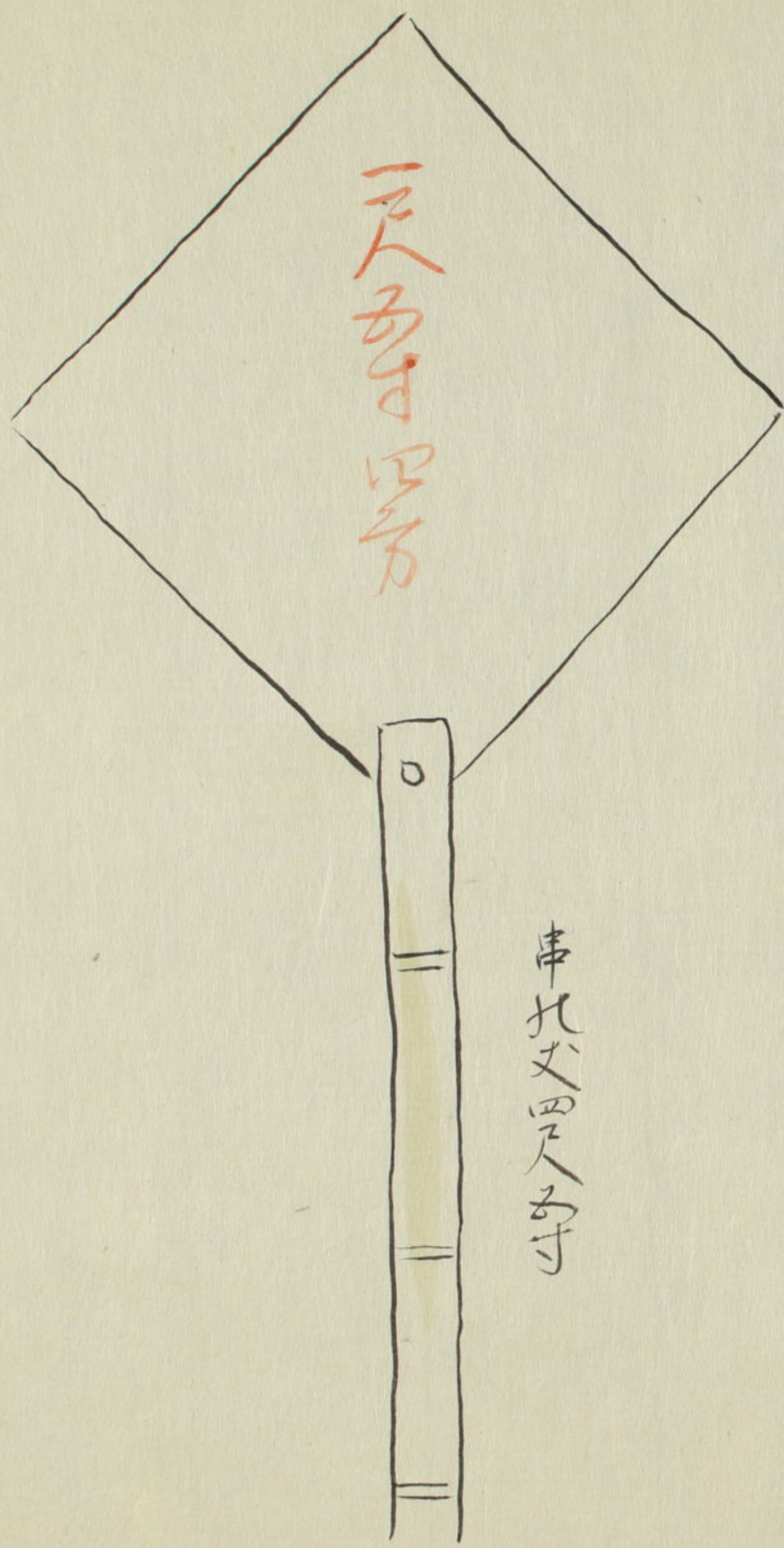




的

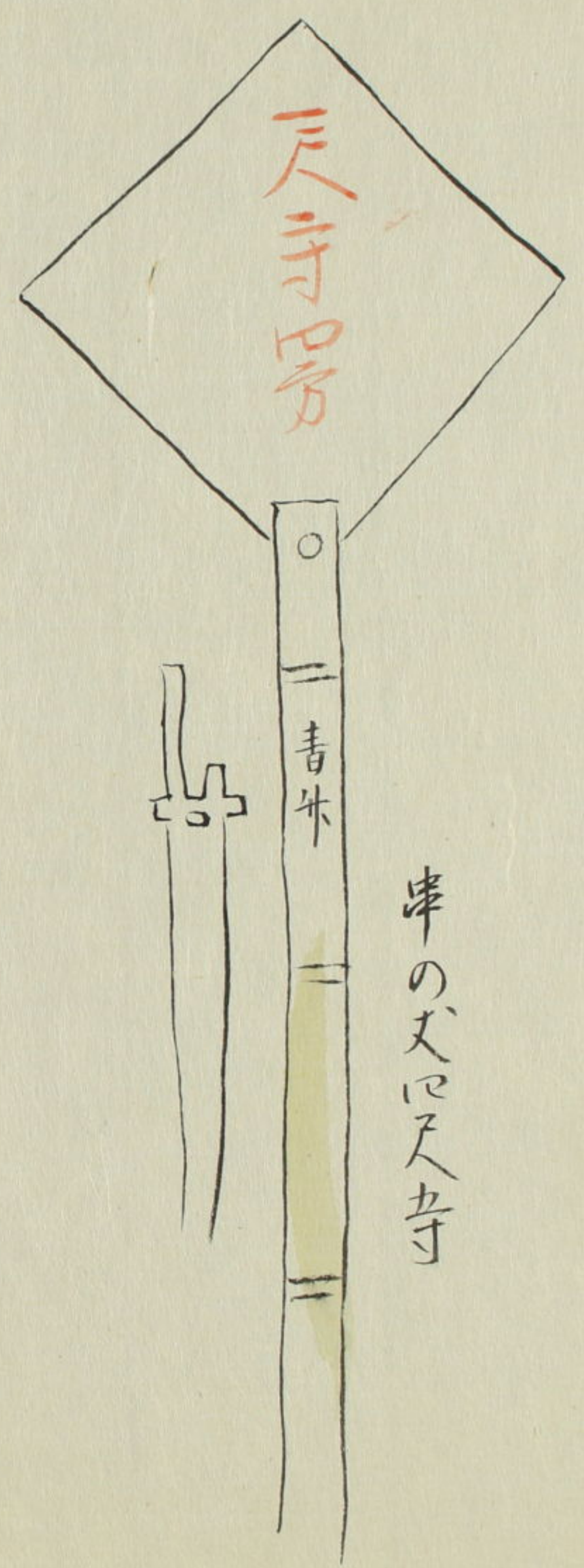
是ハ尺或一尺五寸又ハ一尺八寸あり尚代ハ之杖の的一尺寸  
 五杖の的一尺五寸と定之ををづらうと云杖五杖と同  
 とらうなり挾物式直らう傳来品云九四六之尺の  
 〇挾らり秘るりはれハ其所定よと云はるの串ハ  
 青竹巾儀らう串と云ふと云作或ハ布紙採らるを  
 々略倣らうて其間き事之的合ハ之杖五杖ともを  
 ろうと云疏の云中らう串ハ根際うて打事なり





五杖的の圖

串の丈四尺六寸



三杖的の圖

串の丈四尺六寸

馬場其外の事

馬場其長さ百二十 其内疏を極解りいより一の的迄  
の間二十七杖一孔的より二孔的の間四三孔的より三  
の的迄其間同形なり其先余り其身なりをを流  
らうて的合打あり又疏の深さ六寸幅三尺なり是  
古実と記す

但古法はハ的合さぬ可れども當代ハ古の場合を  
用ひ流瀉馬ハ又別儀なり其時吹上清庭にて騎  
射ありとも 御好まて場不考其来其古実と記

遠や一其事多ありなり然心記す

此一冊者古法騎射の射具其委変記並依  
て射具其外取扱る事有之とも私の相好  
を以て凡作習不可有古實大切可守者之

寛政元己酉年四月書之

土岐源頼貞藏書

